

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第4号

令和2年 7月1日(水) 発行



「緑の公衆電話」

～ やめませんか？ 忘れ物お届けサービス ～

校長 熊崎 健一

ある休日、ぼんやりテレビを見ていました。「ドライブスルー公衆電話」なるものが愛知県日進市にあり、当局によると“世界に誇る名所”だとか。1980年代に設置されたそうですが、車に乗ったまま電話できるなんて当時はかなり画期的なものだったでしょう。昨年7月には31年ぶりにリニューアルされ、全国でもう一か所あった島根県雲南市のものが廃止となったため、正真正銘オンリーワンとなったそうです。とはいえ、近頃では携帯電話やスマートフォンなどの普及により、ドライブスルーどころか公衆電話自体が随分と減ってしまいましたね。

学校の玄関には緑の公衆電話が設置されています。昨年度の利用状況を調べてみると、ひと月で約900円、1回あたり10円とすると90回。月20日ほど登校するので1日4～5回程度の利用となります。それでも雨の日には、お迎えをお願いするために多くの生徒が並んで順番を待っています。そんな光景を見ると、まだまだ学校には必要なものだと感じます。

さて、ようやく本題です。雨の日以外の利用で多いのが“忘れ物SOS”です。教科書・提出物・水筒・着替えなど、生徒は結構気軽に電話をかけているようにも見えます。もちろん、小声で申し訳なさそうにかけている生徒もいます。いずれにせよ、忘れ物の類は登校して気付くので、SOSの電話は8時前後となります。そんな時間帯は、お家の方も仕事に家事にと大変慌ただしい！それでも我が子からSOSがあれば何とか助けたいのが親心。増してかわいい孫のためならお爺さんお婆さんも協力を惜しみません。その気持ちは、よくよく分かります。

一方、「これでいいのか？」ということをいつも考えさせられます。中学生ですから持ち物の支度は自分でやっているはず。だから、忘れ物をしたことは自分の責任なのです。電話一本で自分のしてかしたミス始末をつけているなんて…。“自分のことは自分でやる”が、自立の大前提なのに…。いつまでも親頼み、家族頼みで、自立に向かっているといえるのか？

私が子供の頃(昭和50年代)は、まだまだ家に車が何台もあるような時代ではありませんでしたし、忘れ物を気安く届けてくれる家族はいませんでした。だから、忘れ物をすれば走って取りに帰るか、こっそり誰かに借りるか、潔く先生に叱られるかを自分の頭で考え、良くも悪くも覚悟を決めていたような気がします。よくいえば、「まず自分の力で何とかしよう！」という対応力が育ったといえるかも？保護者あてにお願いした重要な提出物ならともかく、学習用具程度のもは、学校でどのようにも対処できます。きちんと指導や見届けもします。

愛する我が子、我が孫の子育ち(自立)のために、“忘れ物お届けサービス”をやめるといふ選択肢もありだと思えますが、いかがでしょうか？

